

第 146 回技術倫理協議会 議事録

1. 日 時：2026 年 9 月 18 日（木）10:00～11:20
2. 場 所：オンライン会議（Teams）
3. 出席 15 名、欠席 21 名（役職順／所属順、敬称略）

	役割	氏名	所属学協会	出欠
1	議長	中野 智仁	日本技術士会/日本原子力学会	出席
2	副議長(正)	藤木 篤	日本工学教育協会	出席
3	副議長(副)	金光 秀和	日本機械学会	出席
4	幹事(正)	竹居 信幸	日本技術士会	出席
5	幹事(副)	鈴木 賢太	日本工学教育協会	出席
6	幹事(副)	栃内 文彦	日本機械学会	欠席
7	委員	皆川 勝	公正研究推進協会	出席
8	委員	吉開 範章	公正研究推進協会	出席
9	委員	横山 明彦	電気学会	欠席
10	委員	横山 真吾	電気学会	出席
11	委員	森下 壮一郎	電子情報通信学会	出席
12	委員	木下 宏揚	電子情報通信学会	出席
13	委員	伊藤 和也	土木学会	
14	委員	三輪 準二	土木学会	
15	委員	鈴木 慎一	日本化学会	
16	委員	大場 恭子	日本原子力学会	
17	委員	平田 京子	日本建築学会	出席
18	委員	吉田 和行	日本非破壊検査協会	
19	委員	村田 裕幸	日本マリンエンジニアリング学会	
20	学識委員	仙田 満	日本工学会フェロー	
21	事業担当理事	蘆立 修一	日本工学会理事会	出席
22	アドバイザー	長島 昭	元議長	
23	アドバイザー	池田 駿介	元議長 日本工学会フェロー	
24	アドバイザー	大輪 武司	元議長	
25	アドバイザー	日高 邦彦	元議長 電気学会	
26	アドバイザー	三木 哲也	元議長 電子情報通信学会	
27	アドバイザー	桑江 良明	元議長 日本技術士会	
28	アドバイザー	札野 順	元議長 日本工学教育協会	
29	アドバイザー	松久 寛	元議長 日本機械学会	
30	アドバイザー	草柳 俊二	元議長 土木学会	
31	アドバイザー	南 裕二	前議長 電気学会	
32	アドバイザー	石川 孝重	日本建築学会	出席
33	オブザーバ	吉沢 清晴	日本技術士会	
34	オブザーバ	岩西 伸介	土木学会	
35	オブザーバ	鎌田 潤一	日本建築学会	出席
36	事務局	井上雅訓 (木暮 賢司)	事務局	代理出席

4. 議題

- (1) 前回議事録（案）について
- (2) 2026年度（第22回）のシンポジウムについて
- (3) 会員学協会活動報告について（報告）
- (4) 次回以降協議会日程について（審議）（資料なし）
- (5) その他

5. 議事

(1) 議事録案の確認

前回同様、非公開版議事録を用いて確認。

特段の追加修正要求は出されず、議事録案は了承された。

(2) 2026年度（第22回）のシンポジウムについて

- ・シンポジウム企画の検討

開催日：2026年12月10日（木）

時間：13:00～17:00

会場：建築会館 建築学会の協力により終日予約済み

テーマ案：「科学技術にAIが導入されることで変化する技術倫理教育」

このテーマの下で、AIを含む近年の技術進展が、技術倫理教育をどう変えるのか、変えない部分は何かわ変わるべきなのか、を議論したいという趣旨が共有された。

(3) 会員学協会活動報告について（報告）

会員学協会活動報告について（報告）（技倫資料146-5）

	学協会名	報告概要
1	公正研究推進協会	9月14日（火）に APRIN 理工学系分科会を開催した。主な議事は以下の通り。 1. 教材単元の内容等について以下の点を確認した。 1)新単元「企業活動において技術者が起こしうる不正とその対策」について査読結果を踏まえて原稿の修正中である。査読していただいた方々や技術倫理協議会構成員を含めて本分科会との意見交換会を1月中旬から下旬に開催する。 2)新単元「農学分野の技術者倫理」について、原稿が完成し、公開の準備段階である。広報活動として、日本技術士会農業部会（10月1日）全国農学系学部長会議（10月22日から23日）、全国公正研究推進会議（2027年2月3日から4日）などにおいて教材を紹介する。 3)改訂単元「情報技術に関する倫理」については、8月31日にリリースされた。 2. その他の議事・報告 1)APRIN10周年での分科会の実施事業として、技術倫理協議会メンバーとの意見交換会や新単元の広報などを実施する方向である。また、APRIN 全体として「志向倫理」について検討される予定である。 2)全国公正研究推進会議における理工学系分科会について、原子力利用における倫理、志向倫理、AIの研究への活用の倫理などをテーマとして進めることとした。

	学協会名	報告概要
		3)研究セキュリティと研究インテグリティの確保に関する有識者会議（内閣府所掌）による「研究セキュリティの確保に関する取組のための手順書」（2025年12月）の研究を開始している。関連して安全保障を扱っているAPRINの単元をリストアップして、内容の精査を始めている。分科会単独では単元「機微技術の管理」の精査を担当する。 4)単元「研究不正」における“オネストエラーと見解の相違は、研究不正に含まれない”とする記述について機関会員から問い合わせがあった。オネストエラーとは、欺く意図なく、誠実に行った過程での誤りであり、それ自体は研究不正ではないが、それを放置すれば不正となりうる。また、研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったときには不正行為と認定されうる。このような点を踏まえて教材の改訂を検討する。 5)人文社会科学系分科会において「自己盗用」について公開研究会を9月25日（金）13：30より東京大学本郷キャンパスにおいて開催する。 6)第2回のCRIA（認定研究公正アドバイザー）試験の受付中である。
2	電気学会	8/19に倫理委員会を開催し、令和9年電気学会全国大会（2027/3/9@金沢大学）での倫理委員会主催のシンポジウムのテーマ及び講師候補案を審議した。 8/28にルーテル市ヶ谷センターにて倫理研修会を開催した（参加者：約50名）。「技術者倫理事例集第3集」の3事例を題材として、「逸脱の常態化・正常化」および「若手技術者へのメッセージ」に関する講演と意見交換を実施した。参加者アンケートの結果を踏まえ、今後の活動案を検討予定である。 10/26（月）に「倫理講演会」を開催予定、協議会メンバーに周知済。
3	電子情報通信学会	
4	土木学会	
5	日本化学会	
6	日本機械学会	○第2回技術倫理委員会（2026年9月6日、12:00～12:30） ・130周年記念表彰：選考方針等の確認・協議 ・市民フォーラムの確認：直後開催のフォーラムに向けた進行内容の確認 ○市民フォーラム「技術者・研究者・市民の倫理問題と学会の役割―現場・教育・社会をつなぐ対話の場として―」（2026年9月6日、13:00～15:45） 松浦淳氏（豊田合成(株)）、松久寛氏（技術倫理委員会委員・京都大学名誉教授）、柿野成美氏（昭和女子大学大学院）による提題をもとに、市民を含めた対話を実施
7	日本技術士会	2026/9/17に委員会を開催した。 2026年11月6日技術士全国大会（金沢市）において、技術者倫理情報連絡会を開催予定。
8	日本原子力学会	2026/8/25に委員会を開催した。 中部電力 基準地震動策定に係る不正行為事案に関して、中部電力の調査委員会の報告書が公表された段階で、委員会大で中部事案の原因等と倫理規程との関係の分析を進めていくこととしている。特に、技術者倫理についてどう取り扱われているかを注目しておく方針である。 2026年度の倫理研究会の開催について検討を行っている。「前原子力規制委

	学協会名	報告概要
		員会を招いて、原子力の倫理について自由に議論する。」「浜岡事案について、中部電力 OB を招き、幅広く自由に議論する。」等の企画を検討している。 2027 年 3 月の春の年会の企画セッションとして不正に関することをテーマとして、規範と日頃の行動のギャップを考える企画を検討している。 2026/9/9 に秋の大会（愛媛大学）で企画セッションを開催した。 「中部電力の不正行為事案を契機とした倫理的課題への向き合い方～倫理委員会は何を考え、何に取り組んできたのか～」と題して、 倫理委員会が浜岡原子力発電所の不正行為事案を通じて何を考え、何を表明してきたのか、中部電力の現状（報告書提出前）について倫理的な課題、①倫理・安全・コンプライアンスの隙間、②不正や逸脱があっても表面化しにくいと感じること、③倫理的な行動を実践する上で重要と考える点等について討論を行った。
9	日本建築学会	・8月28日に倫理委員会が開催され、以下の活動報告と審議が行われた。 ⇒「事例に学ぶ建築技術者倫理研修会」については、参加者15名で行われた開催結果と、12名からのアンケート回答についての報告があった。 ⇒建築倫理基本問題検討小委員会では、「AI・知的財産と倫理」「法と倫理広報WG」「地球環境の変化と倫理」の3WGの進捗報告があった。 ⇒2027年度日本建築学会(東北)大会研究集会については、対面開催の研究協議会とする方針で企画検討をすることとした。 ⇒倫理委員会新規委員については、倫理委員会の継続性と新陳代謝を図る観点から、各委員が若手の委員候補を推薦することとした。
10	日本工学教育協会	9月2日から4日の日程で、日本工学教育大74回年次大会・工学教育研究講演会が開催された。会期中、日本工学教育協会技術者倫理調査研究委員会・第3回倫理委員会がハイブリッド形式で行われ、同委員会が主体となって企画・実施された「高等教育とウェルビーイング（その3）」や、委員がパネリストとして参加した「工学教育サロン：頼れるAI棒（相棒）！そこまで使って委員会！？～便利さの裏に潜む「グレーゾーン」と現場の「モヤモヤ」を本音で語り合う～」についての情報共有がなされた。また例年開催しているワークショップについても、国際セッションとリスキリングの二つのプログラムを設定することが、委員会内であらためて確認された。
11	日本非破壊検査協会	
12	日本マリンエンジニアリング学会	

(以上)

(4) 次回以降協議会日程について（審議）

次回開催日：2026年10月15日（木）

時間：13:00～15:00

以上